



担当=DZHフィナンシャルリサーチ・石原敬子

トムソン・ロイターのフィナンシャル・リスク部門の名称はRefinitiv(リフィニティブ)に変わりました

知りたい
投信 なるほど
リッパー

3月までの資金動向 荒れ相場が分かつ投資家の動き

新型コロナウイルスの感染拡大は先が見通せず、心配な日々を送っていると思います。経済への影響も懸念されていますが、それでも3月の投資信託市場には資金が集まりました。リッパーの推計で、国内販売の株式オープン投信は上場投資信託(ETF)を除き、約2787億円の純流入。3カ月連続の流入超過で、1~3月累計は約8184億円の純流入でした。

では、どんな投信に資金が集まったのか。グラフはリッパーの分類で、1~3月累計の純流出入額5位までの投資対象です。純流入上位には、株式型がずらり。米国株、グローバル株、公益株といった比較的大きな市場に資金が向かったようです。

よく見ると、少し違うタイプの投信が入っています。しかも、純流入と純流出の両方。純流入2位と純流出5位

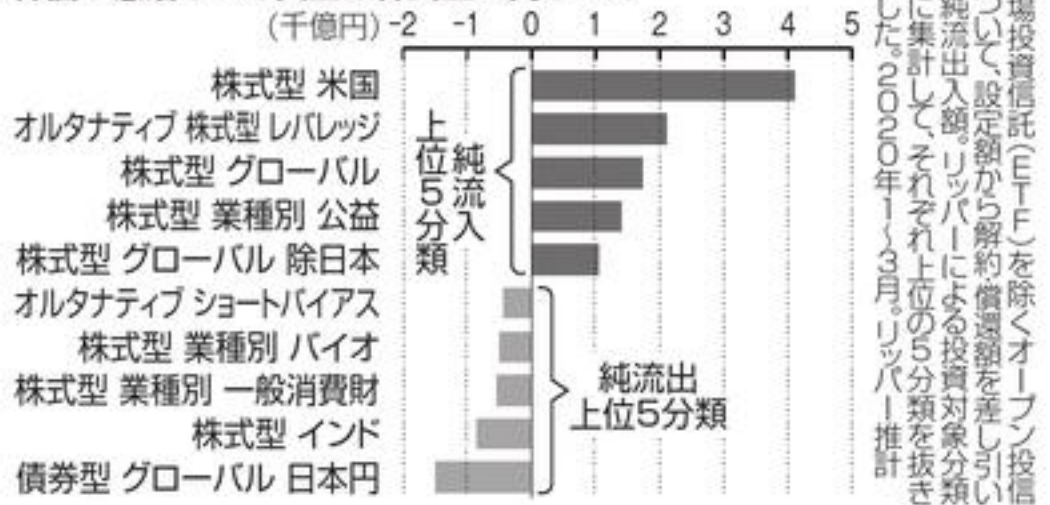
に、「オルタナティブ」という名前が付いた分類があります。市場用語で「代替資産」と訳される、株式や債券などに代わる投資のこと。ヘッジファンドや商品ファンド、不動産も含まれます。先物取引などを使い、市場の数倍の値幅で動く投信で、投機的取引が目的です。

純流出5位の「ショートバイアス」は、市場と反対で、しかも何倍もの動きをするという、特殊な投信が分類されています。例えば2倍なら、

市場が20%下がると基準価額は40%の値上がりです。株価急落で利益を得た投資家が解約したのでしょう。

一方、個別の投信では、証券会社や信託銀行に取引を任せるラップ口座に動きがありました。国内外の株式型や外国債券型から国内債券型への切り替えがあったようです。資産形成派は「寄らば大樹」の株式型を買い、投機派は機動的に動き、一任派は低リスクへ。投資方針によって動きが分かれました。

株価が急落しても資金は株式型へ向かった



■資金純流出入額ランキング (2020年1~3月)

順位 ファンド名(☆は20年新設、※はラップ口座専用) 資金純流入額(百万円)

<純流入額トップ5>

1	ティー・ロウ・プライス 米国成長株式ファンド	123,537
2	☆GSフューチャー・テクノロジー・リーダーズBコース(為替ヘッジなし)	113,165
3	ピクテグローバルインカム株式(毎月分配)	111,783
4	次世代通信関連 世界株式戦略ファンド(三井住友トラスト)	93,447
5	グローバル3倍3分法ファンド(1年決算型)(日興)	72,095

<純流出額トップ5>

1	野村インド株投資	-52,009
2	※ファンド・マネジャー(海外株式)(三菱UFJ国際)	-51,961
3	※ファンド・マネジャー(国内株式)(三菱UFJ国際)	-43,640
4	ラサール・グローバルREIT(毎月分配)	-28,639
5	※野村外国債券インデックス Bコース(野村投資一任口座向け)	-26,857

上場投資信託(ETF)を除く株式オープン投信について、設定額から解約・償還額を差し引いた。リッパー推計